

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者支援の新規プログラムの開発や新規事業開拓により工賃が向上し、利用者の就労意欲も高まっています
	内容	事業所では一般就労への準備支援とし、利用者一人ひとりの自立を促す取り組みを行っています。このため、事業所に通所するためにはある程度の条件が課せられます。作業の技術を学んでもらうのではなく、作業を通じて社会性を学ぶことができるよう支援しています。前年度新規プログラムや新規作業の開拓を熱心に行つた結果、利用者の生活面や通所意欲への向上につながりました。こういった新しい取り組みにより利用者の自信にもつながり、さらには地域一の工賃も達成することができ、利用者のさらなる就労への意欲が高まってきます。
2	タイトル	利用者の希望を叶えるため、家族との連携をより強固なものとし事業所と一体的に支援に取り組む仕組みが構築されました
	内容	事業所では本人の意思を尊重した上で必要に応じて、家族とも連絡を取りながら利用者支援に努めてきました。これまで年に1回、事業所の活動方針を伝えるために家族への説明会を実施していましたが、昨年度より家族との連携をより強固なものとするために、家族面談を実施しました。この新しい取り組みにより家族との良好な関係性ができ、職員にとっては利用者の生活や体調面などへの理解も深まり支援の向上にもつながっているようです。利用者の希望を叶えるため家族と事業所が一体的に取り組む仕組みが構築されてきています。
3	タイトル	利用者の就労後の姿を描き、働くことを前提として、通所・作業から学ぶことができる環境づくりに取り組んでいます
	内容	利用者の主体性を尊重し「働くこと」を重視した支援を貫いていることが同事業所の大きな特徴だといえます。平成30年度はこれまで行ってきた一般就労への準備支援のほか、福祉就労の充実を新たに事業所の中心的な機能に捉え、それぞれのニーズに応じた2つのグループ分けを行い支援の充実を図ってきました。また、楽しく働くというのではなく「仕事をする場」ということを利用者に理解してもらうように取り組んでいます。働くということを軸としてさまざまなルールなどもありますが、社会性を養い利用者の就労後の姿を描き支援の充実を図っています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員間の良好な情報共有を利用して、利用者支援の標準化への構築が期待されます
	内容	前年度、職員の異動や新入職員の入職もあり、事業所では必要としている業務水準には、まだ達していないと感じているようです。新しい職員にはOJTで少しづつ指導をしていくという方法もありますが、利用者への支援は一人ひとり異なりパターン化されていないことから、職員の経験則も重要なポイントとなります。当事業所は職員の情報共有が非常に密で、利用者の状況を全職員が把握していることから利用者支援にも良い影響を与えていきます。こういったメリットを活かし、利用者支援における支援の標準化を早急に図ることが期待されます。
2	タイトル	利用者一人ひとりの得意分野を把握し、現段階の工賃の維持・向上を図る取り組みが期待されます
	内容	前年度、新規事業所の開拓を行ったことにより受注数が増加し、工賃が市内の上位にランクする金額となりました。こういった成果が表れたことにより、利用者にとってのモチベーションアップにつながり、通所率も増えました。しかしながら、受注先が増えるということは納期の厳守や品質の面でより高いものが求められます。利用者一人ひとりに対して丁寧に支援を行うことが現段階ではなかなかとれない環境にあります。利用者個々の得意なこと、できることを詳細に把握して作業の効率化を図り、さらなる工賃アップを図る取り組みが期待されます。
3	タイトル	利用者の将来の自立した生活を見据えた支援の充実が期待されます
	内容	事業所の特徴として、利用者の平均年齢が31.4歳と若い方の利用が多いことが挙げられます。事業所では、利用者の社会的自立を目指しており、利用者一人ひとりの将来に向けた自立に着目し、話し合いを始めています。利用者と家族の意見が相違する場面や、利用者が現状を把握していない等、まだまだ、調整が必要な状況です。また、家族機能が弱い利用者には、後見制度等についても提案し、話し合いをしています。職員全員で利用者の将来に向けた支援に目を向けて行きたいと考えており、利用者の将来を見据えたさらなる支援の充実が期待されます。